

保護者との面談を、 どう進めるか？



保護者の考えで生徒の進路が変わることもあり、進路指導を進めるうえでは、保護者の存在を意識されることも多いでしょう。一方で、保護者対応に苦手意識を抱く先生も少なくないのでは？そこで今回は、子どもの進路を心配して訪れた保護者への対応ケースを考えたいと思います。ご自分は、どのような対応をされているでしょうか？

取材・文／清水由佳 イラスト／おおさわゆう



【解説&アドバイス】

会津大学 文化研究センター
教授
菊間澤勇人先生

かりまざわ・はやと●1986年岩手大学工学部卒業後、岩手県立公立高校教諭に。早稲田大学大学院教育学研究科後期博士課程単位修得退学。教育学、教育カウンセリング心理学を専門とする。2015年4月より現職。

今回のケース

2年生女子の保護者が、志望校に関して相談に訪れた

<ケースの背景・状況>

将来教師になりたいという2年生女子。成績などを総合的に判断していくと、県外の大学まで選択肢を広げたほうがよさそうという話をしていた。ところが保護者から、「県内の学校に進学させたいのだが、先生に県外の学校を薦められたと聞きました。どうしたらいいのか相談したい」と連絡が入り、面談を行うことになった。

ありがちなやりとり

①

言い訳じみたことを
言うてしまう

保護者：うちの子が、県外の大学を先生に薦められたと言っていて、困っているんです。

先生：え〜と、それは。教員を志望されているので、まずは可能性を広げるために、県外も調べてみるとういかなと思ひまして。

保護者：でも、やっぱり、娘には家から通える学校に行ってほしいんですよね。

先生：ああ、まあ、そうですね。とりあえず調べるだけ調べてみたらということで、必ずしも県外でなければと言ったわけでは…。

保護者：でも、先生が県外の学校を薦めたからと、娘は言っていました。

先生：あいや、それは…(しどろもどろ)。

【解説&アドバイス】身構えずに経緯をしっかり伝え、信頼関係を築く

保護者対応が苦手な先生の中にありがちなのが、「保護者が来る＝クレームを言われる、攻撃される」と身構えてしまい、本来、きちんと説明すべきところを、言い訳じみた発言の繰り返しになってしまう点です。そうすると、結局「だって先生、そう言ったんですよ」と詰め寄られる結果になりがちです。

教師と生徒、保護者の3者の中では、教師が一番進路情報をもっていて、その次が生徒、保護者という順番になるでしょう。

だからこそ保護者は、先生に「相談」に来ているのであって、単に情報を得たいと考えていることも少なくありません。わざわざ学校にまで足を運んでくれる保護者です。進路情報にとっても関心が高く、先生に期待しているはず。言い訳ではなく、これまでの経緯を丁寧に説明することが大切です。

まずは、保護者を信頼し、良い関係を築いていきかけにしてください。

ありがちなやりとり

②

理詰めで冷たい印象 になってしまう

保護者：うちの子が、県外の大学を先生に薦められたと言っていて、困っているんです。

先生：Aさんの成績だと、県内の教員養成系の大学は難しそうなので、県外も視野に入れたほうが良いとアドバイスしました。

保護者：だけど、教員養成系でなくても、教員免許を取得できますよね。

先生：そうですが、実際は、受けるべき授業数が非常に多くなり、最後まで頑張れる学生は少ないのが現実です。

保護者：でも、地元で就職したければ地元の大学のほうが良いのでは？

先生：教員採用試験も難しくなり、あまり関係なくなりましたね。お母さんの時代とは大きく変わっていますよ。

(解説&アドバイス) 保護者の気持ちを酌み、適度な自己開示も大切

事実をそのまま伝えているのですが、理詰めで淡々としすぎて、保護者からすると「冷たい」という印象になりがちです。まずは、保護者の考えや気持ちを受けとめるカウンセリング的な対応を心がけることが大切です。「でも」「だって」などの言葉が多くなるときは、相手が反発している証拠。そのような状況では、たと

え正しい情報でも、相手の心に届きづらいと言えます。また、面談の場だけの問題ではなく、日頃からいかに保護者との関係づくりを意識するかも大切です。先生自身がどのような考えなのか、学級通信などで伝える機会を多くつくって自己開示しておく、といったときの保護者対応がしやすくなります。

ありがちなやりとり

③

自分の考え・価値観を 押し付けてしまう

保護者：うちの子が、県外の大学を先生に薦められたと言っていて、困っているんです。

先生：ご心配でしょうが、やはり教員になりたいのであれば、これからの時代はいろいろな経験を積んで視野を広げたほうが良いと思いますよ。

保護者：でも、娘にはやっぱり家から通える大学に行ってほしくて。

先生：お気持ちはわかりますが、グローバル化する時代の中で、もっと広い世界を見てもらうことが大事なんじゃないでしょうか。そこは、かわいい子には旅をさせると言いますし。4年間で大きく成長したお子さんを想像してみてください。ね、お母さん。

保護者：…。

(解説&アドバイス) 一人ひとりに良い方向性を、共に探っていく工夫も

先生として指導する立場が強くなってしまくと、保護者の思いを封じて説き伏せる形になりがちです。しかし、その場では納得してくれたかと思っても、本当に理解してもらえているかは別で、独りよがりな面談で終わることも少なくありません。

そこで、このような保護者面談の場合は、1対1で対応するのではなく、他の先生にも同席してもらい、自分の癖が強く出すぎている

ときに合図をもらうとか、フォローしてもらえらる態勢にするのがお勧めです。

さらに、生徒自身も交えて、保護者・生徒・教員2人くらいの大勢で話をするのもいいですね。「みんなで一番良い方向に向けて話し合いをしていきましょう」というスタンスがとれると、保護者だけでなく生徒自身の納得感も高くなると思います。

相談に訪れる 保護者対応のポイント

1. 保護者の思いをまずは受け止める
2. これまでの経緯を、データや資料を交えて伝える
3. 日頃からの関係づくりも大切

⇒ こんな面談にできると・・・

保護者：うちの子が、県外の大学を先生に薦められたと言っていて、困っているんです。

先生：お母さんは、県内の大学に進学してもらいたいと思っておられるのですね。

保護者：はい。女の子ですし、一人暮らしをさせるのは心配です。

先生：なるほど。確かに、本人もずっと県内の大学に進学したいと言っていましたね。

保護者：そうなんですよ。

先生：ただ、最近の模試の結果から、県内の学校だけだと少し不安がありまして(データを見せる)。でも、県外に目を向けると可能性が広がるんですよ。例えばこの学校などは～(と、具体的な学校の資料なども提示していく)。

詳しい解説は次ページで



自分の癖や傾向を客観的に捉え、 「I'm OK, You're OK」の関係づくりを

交流分析の理論から
やりとりを考えてみる

前頁に紹介した「ありがち」な保護者とのやりとりですが、交流分析の見方で考えると、なぜうまくいかないのがわかりやすくなります。交流分析は、前回も少し触れましたが、対人関係におけるやりとりの

型を基に課題解決をはかる心理療法です。それぞれの自我は、図1にあるように、「P(ペアレント・親)」「A(アダルト・大人)」「C(チャイルド・子ども)」の3つの型に大別でき、その型の違いから対人関係に課題が生じると言われています。さらに、対人関係において、人と他者をどのように捉えているかという考え方を、図2

のような分類で整理し、「I'm OK, You're OK」の捉え方で臨めると、安心感のある関係が築けると言われています。

その点から見ると、前ページのありがちなやりとり1は、先生のスタンスが、「I'm not OK, You're OK」になっていて、自己効力が低い状態になってしまっています。さらに、先生の状態はA Cが強く出すぎて、ストレスをため込む結果になっています。

一方、ありがちなやりとり2は、先生の状態はAが強く、冷たい印象になりがちですし、ありがちなやりと

り3の先生は、F Cがマイナスに出て、自己中心的で軽はずみと捉えられそうです。いずれにしても、この2と3のやりとりは、どちらも「I'm OK, You're not OK」のスタンスのため、保護者からすると「理解してもらえていない」という不満が残りがちです。

自分の傾向をカバーしてもらえ 第三者と一緒に対応を

教師という職業柄、日頃から指導的に生徒に関わることが多く、そのため、「I'm OK, You're not OK」のスタンスに陥りがちです。

だからこそ、意識的に「I'm OK, You're OK」のスタンスで、相手の話を尊重して聴く姿勢を大切にしたいところです。

その一方で、相手を意識しすぎてしまうと、ありがちなやりとり1の先生のようにA Cが強く出すぎて、先生自身がストレスをためかねません。そのため、ご自身の傾向をカバーしてもらえよう他の先生にも同席してもらって話ができること、より安心・安全な話し合いの場がつけられるのではないのでしょうか。

図1 自我状態

P	CP	【厳しさ】 厳格な親。責任感が強く、統率力がある。強く出すぎると、排他的になりがち。
	NP	【優しさ】 保護的な親。受容・共感的で、面倒見が良い。強く出すぎると、おせっかい。
A		【客観性】 冷静で客観的・論理的に判断できる大人。強く出すぎると、冷たい印象になる。
C	FC	【素直な感情表現】 素直で天真爛漫な子どもの心。強く出すぎると、自己中心的でわがまま。
	AC	【協調性】 相手に合わせる協調性が強く、我慢強い。強く出すぎると、ストレスをためる。

図2 人生态度(4つの基本姿勢)

		You're OK			
I'm not OK	あなたは大丈夫。でも、私はダメ	あなたも、私も大丈夫。	ハツラツ健全ポジション	I'm OK	
	おどおど不安ポジション				
	あなたも、私もダメ。	私は大丈夫。でも、あなたはダメ	バリバリ指導ポジション		
	ダメダメ あきらめポジション				You're not OK